

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書5章33～39節＞

1 (33) バプテスマのヨハネの弟子たちも断食や祈りに熱心だった？！

宗教や信仰と聞くと断食や祈りを思い浮かべる人は多いでしょう。しかしここを読むと、イエス様はそれらを重要視されていなかったのか、と考えさせられます。しかも、ファリサイ人だけでなく、イエス様に洗礼を授けたバプテスマのヨハネの弟子たちも断食や祈りに熱心だったのに、という点が面白いところです。どういうことでしょうか？

2 (34-35) 断食や祈りと並べて考えられない大きな恵みに注目！

イエス様は問われた問い、すなわち断食や祈りについて答えられるのではなく、花婿が今いる婚礼の話を変えられました。断食や祈りをどう考えたらいいかは問うてもいい質問です。しかしイエス様は、「今は、そんな問いをする時ではないのだ。私がここにいるのだから、そのことを問題にしななければならない時なのだ」、とおっしゃっているのです。

今日の箇所の前半から、イエス様によってもたらされた神様の救いの出来事の大きさを改めて思い巡らさなければならないのです。神様がなして下さった出来事の大きさです。私たちがどのように振舞うべきかは小さな問題だと思わされるほどの、圧倒的な赦しの恵みに富み給う神様を思い巡らすことが大事なのです。

3 (36-38) 中途半端ではなく、この恵みの神に完全に乗り換える！

新しい服に古い服で継ぎはぎをしてはいけないし、その逆もだめ。新しいぶどう酒は新しい革袋に。分かりやすい例えです。聖書の神様を信じる信仰を持ったら、この神様を土台とする生き方にしっかり乗り換えて生きることが大事です。自分中心の生き方は続けて、行き詰った時に、役に立ちそうな聖書の中の教えを探して継ぎはぎに用いようとするのはまだ信仰ではありません。パウロがテモテに言い聞かせた言葉に耳を傾けたいと思います（テモテへの手紙Ⅱ 3:10-17）。

4 (39) 不思議な言葉の真意は？ キリストの救いの恵みを知ったら！

既に与えられているものに「これでいい」と満足する大事さもありません。しかし、それで済ませては絶対にならないものがあります。神様が差し出して下さったイエス様の救いに対してです。39節の言葉は、古いものに執着しがちな人間と神様の救いへの招きをよく示しています。